

大地震に耐えられない女川原発を動かすな！ 原発耐震設計審査指針の抜本的強化を！ 女川原発の設置許可を取り消し、 耐震設計の安全審査をやり直せ！ 1/18 対政府交渉に参加を！

2005年8月16日の宮城県沖プレート境界地震で、女川原発3基すべてが自動停止しました。2003年5月26日の三陸南スラブ内地震でも、当時唯一運転中だった3号炉が自動停止しています。いずれも原発の耐震性にとって致命的な短周期成分の強い地震動でした。2年余で2度も同じことが起きています。しかも、宮城県沖プレート境界地震では、敷地内地下岩盤での地震動(はざとり波)の応答スペクトルが女川原発原子炉設置許可申請書の基準地震動S1およびS2の応答スペクトルを超えていました。三陸南スラブ内地震でもS1の応答スペクトルを超え、S2-D(直下地震以外の地震によるS2)の応答スペクトルを超えていました。これは耐震設計審査指針で求められている設計用基準地震動とその応答スペクトルの策定方法が間違っており、プレート境界地震やスラブ内地震が小さく設定されすぎたためです。

姉歯建築設計事務所による構造計算書の偽造事件では、設計用地震動がわざと小さく設定されていました。女川原発でも、結果として同じことが起きているのではないのでしょうか。これでは女川原発は大地震に耐えられません。政府は女川原発の設置許可を取り消し、安全審査をやり直すべきです。

他の原発でも同様のことが危惧されます。原発の耐震設計を根本から見直す必要があります。

折しも、原子力安全委員会は現在、耐震設計審査指針の改訂作業を行っています。そこに今回の問題を反映させる必要があります。そこで、緊急ですが、経済産業省原子力安全 保安院および原子力安全委員会との交渉を呼びかけます。

対政府交渉

日時 :06年1月18日(水)午後2時～

場所 :参議院議員会館 第5会議室

(地下鉄丸ノ内線「国会議事堂前」下車、歩5分)
紹介議員は近藤正道社民党参議院議員です。
事前打合せを午後1時から同じ場所で行います。
当日参加者は必ずこの会合に出て下さい。)

別紙の質問状(案)を連名で提出し、政府を迫りたいと思います。全国の皆様の団体、個人の賛同をぜひお願いします。質問状(案)にご意見をお寄せ下さい。

また、交渉に一人でも多く参加下さい。全国各地からの行動参加者には交通費の半額をカンパで賄いたいと思います。1口1千円で何口でもカンパをお寄せ下さるようお願いいたします。

1月10日を第1次締め切りとします。交渉にご参加下さる方は事前に若狭ネットの久保または呼びかけ団体へご連絡下さい。質問状(案)への追加・修正意見は下記のFAX専用へご連絡下さい。



呼びかけ：原子力発電を考える石巻市民の会、みやぎ脱原発・風の会、若狭連帯行動ネットワーク、
原子力資料情報室 連絡先 :TEL/FAX 0729-39-5660(久保方) または FAX専用 072-330-1630

郵便振込 口座番号 :00940-2-100687 (加入者名 若狭ネット) Eメール : wakasa@gaea.ocn.ne.jp